

令和5年度 南吉田小学校 学校評価報告書

重点取組分野	令和5年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①朝学習・朝読書、読み聞かせ、MY検定、夏季学習教室、放課後学習支援等基礎学力の定着に努める。②社会に開かれた教育課程を目指し地域や人とつながる協働的な学びを行う。(重点研究)③GIGA端末を活用し個別最適な学びを実現させる。	①MY検定やICT活用を推進し基礎学力の定着を図った。学習の振り返りを大切に成長を感じられるように工夫した。②校内研究で人とのつながりを意識した授業づくりを行った結果学習意欲が高まった。③ICT活用が認められ日本教育工学協会から学校情報化優良校の認定を受けた。	B
豊かな心	①ペア学年交流、幼保小交流等を通して優しさや思いやりの心を育む。②学年や学校行事等を通して自己肯定感を育み、協調性や忍耐力等の「非認知能力」の伸びを見える化する研究に取り組む(教育委員会事業)③道徳の学びの足跡を残し意識化できるようにする。	①ペア学年交流はじめ児童会活動を通して豊かな心の育成に努めたことが認められパナソニック教育財団から全国表彰された。②学校行事では主体性が発揮できるように工夫し、自分や集団の成長を実感できるようにした。このことで社会情動的コンピテンシー(非認知能力)の伸びが検証された。	A
健やかな体	①コロナ禍で生活習慣が乱れた児童が多いことから、家庭と連携し規則正しい生活が送れるようにする。②学校保健委員会と連動し運動習慣と健康について啓発していく。③コロナ禍で落ちた体力を取り戻すため、体を動かす機会を増やし仲間と共に運動する喜びを味わえるようにする。	①生活習慣が乱れがちな児童には家庭と連携し規則正しい生活が送れるように働きかけた。②学校保健委員会で体力向上について発信し年間を通して様々な取組を行った。③コロナ禍で落ちた体力を取り戻すため、体育委員会が体力アップ集会を企画し、楽しみながら体力アップできるようにした。	B
多文化共生	①多国籍な子どもたちが共に学ぶ学校として多文化共生の取組を積極的に発信する。②国際読書会、つながる遊び集会、運動会等、文化や言語の違いを知る機会を設け、多様性を尊重できる子を育てる。母語教室を行いアイデンティティの確立を支援する。③海外編入児童の初期日本語指導を全校体制で充実させる。	①本校の多文化共生にかかる取組がNHK「ハートネットTV」で取り上げられ、好事例として全国放送された。②区多文化共生事業を活用し様々な国の文化に親しむ活動を行い、多様性を尊重できる子の育成に努めた。③増加する海外編入児童の初期日本語指導の充実に努めた。	A
いじめへの対応	①いじめが疑われる案件に関しては組織的に対応し子どもが安心して学校生活を送ることができるようにする。②アンケートや教育相談等で事実を把握するとともに、全ての教育活動を通していじめ防止や生命尊重について指導する。③児童会活動でいじめ防止を推進する。	①いじめの訴えには迅速な聞き取りを行い組織的に対応することで早期解決を図った。②保護者の訴えにも丁寧に耳を傾け様々な場面でいじめ防止の指導を行った。③「笑顔で結びつなげよう南吉田」の合言葉を具現化するために児童会活動で主体的な取り組みを行った。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①学年研、重点研を中心にOJTでスキルアップを図るとともにメンターチーム研修を通して経験の浅い教職員同士が悩みを共有できる場づくりを行う。②校内研修を活性化し主体的に学校づくりに参画する意識を高める③コロナ禍で見直した行事や教育活動を検証しより働きやすい職場づくりを進める。	①学年研、重点研を中心に校内でスキルアップを図るとともにメンターチーム研修を通して経験の浅い教職員同士が悩みを共有できる場をつかった。②国際、特別支援、ICT活用等、学校課題対応型の研修を行い課題解決を図った。③働き方改革を推進し時間外労働の削減に努めた。	B
児童指導	①「南吉田小学校スタンダード」の定着を図り職員が同じスタンスで指導する。②児童指導全体会で情報共有し組織的に対応する。③関係機関連携(区、児相、警察等)を充実させ、学校だけでは解決できない課題の改善を図る。④SC,SSWとの連携を充実させ心のケアに努める。	①スタンダードの定着には引き続き粘り強く取り組む。②ケース会議で指導方針を明確にした上で全職員で情報共有し、同じスタンスで指導できるように努めた。③④関係諸機関やSC,SSWとの連携を密にし、問題行動の改善を図った。	B
特別支援教育	①個別支援学級の指導体制や学習環境を充実させ生活の安定と学力の伸長を図る。②一般級においても配慮を要する児童のケアを充実させる。③大学と連携して特別支援教育の研究を行う(横浜国大との連携)④地域コーディネーターと連携して放課後学習支援教室を実施する。	①個別支援学級在籍児童が安心して学び、学習に集中できる環境づくりを行った。②一般学級と個別支援学級の連携を密にすることで困り感のある児童のケアを行った。③大学と連携し特別支援教育の研修を行うとともに、地域学校協働本部の力を借りて放課後学習支援教室を実施した。	A
地域連携	①HPで教育活動を公開し地域に開かれた学校づくりを進める。②まち探検(商店街、公園、吉田新田等)を通してまちを知り、愛着をもてるようにする。③「地域清掃」「地域防災訓練」等の活動に参加し、まちの一員として自覚をもてるようにする。④学校運営協議会の意見を学校運営に反映させる。	①HPをほぼ毎日更新し地域に開かれた学校づくりを進めた。②まち探検を通して地域や町内会の人々と出会い、まちを理解することができた。③「地域清掃」「地域防災訓練」等の活動を通して、地域貢献、地域参画の意識をもてるようにした。④学校運営協議会の意見を学校運営に反映させた。	A
ブロック内評価後の気付き	児童生徒交流会で授業参観、部活体験を行ったり、合唱祭に合わせて交流を行ったりした他、生徒会が制作したVTRを視聴することで中学校生活への理解を深めることができた。教職員の交流では、年2回の小中教務主任会の実施により、小中一貫教育の推進を見据えた円滑なカリキュラムの調整を行った。さらに合同の授業研究会を実施し教育課程の相互理解を深めた。今後は、小中の連続性を踏まえた学状のデータ活用やキャリアパスポートの活用、ICT活用等を重点的に進めていきたい。		
学校関係者評価	学校情報化優良校認定に続き、心を育む活動で全国大賞を受賞したことは目覚ましい成果。地域の学校として誇らしく感じる。多くの外国人児童が編入しているが日本語の手厚い支援や母語によるサポート、地域協働本部(コーディネーター)の支援もあり落ち着いた学校生活を送れている。南吉田のよさはいろいろな子どもと一緒に生活し、外国人だからといって特別扱いせず、平和に過ごせるところ。そうした風土づくりを南区やみなみラウンジが多文化共生事業で支えている。地域では高齢化がすすみ、地域行事を担う人材が不足している。中区では外国人材を活用する取り組みもなかラウンジで始まっている。南区でもこうした事例を参考にしたい。また学校を核とした地域づくりを引き続き推進してほしい。		

中期取組目標振り返り	今年度はコロナによる規制も解除され「社会に開かれた教育課程の実現を通して、多様性を尊重し、人やまちとのつながりを大切に子どもを育てます」という目標実現に向けて積極的に地域と関わった。昨年度に引き続き「防災寺子屋」の取組に児童が参画し地域防災について学びを深めた。そして4年ぶりに復活した「防災授業参観・地域防災訓練」で、その成果を発信した。また南区制80周年記念事業として、地域と協力して「健康体操」をつくったり、80周年を祝う横断幕を作成し掲示したりした。学区探検では商店街や町内会館等を訪れお話をうかがった。さらに4年ぶりのお祭りや餅つき大会など地域行事に多くの職員、児童が参加し、まちとのつながりが深まった。多様性の尊重では、区・みなみラウンジと協働で多文化共生事業を実施した。児童が主体的に動く児童会活動の多文化共生の取組が認められ、公益財団法人パナソニック教育財団から全国大賞を受賞するなど、目標に迫れたと感じている。
------------	--